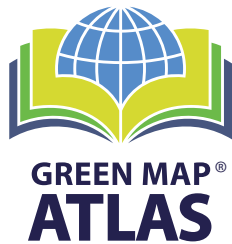




MILWAUKEE

Green Mapmaking along the USA's Great Lakes



グリーンマップ・システムは、世界各地で制作される自然・文化環境のマップを通して、地域の持続可能性や市民活動を応援する非営利団体です。

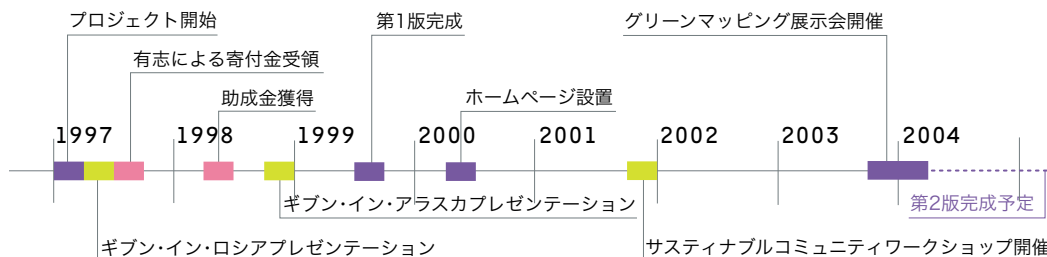


はじめに

Milwaukee · Wisconsin · USA
Milwaukee Green Map
www.wisconline.com/greenmap/milwaukee



ミルウォーキーグリーンマップ詳細 (1999年)



私は都会で何年も暮らしてはいたが、都会生活が健康的であり、環境面でも健全であると全面的に納得していたわけではなかった。ウイスコンシンの農村地域で育ったため、ミルウォーキーのような都市にもなんらかの持続可能なものがあることを示す証拠が必要だと感じていた。

1997年3月、ある雑誌でニューヨーク・グリーンアップルマップを詳しく述べていた記事を読んで、ここでもそれができると胸の高まりを覚えた。当時、都市生活も自然の一部であると他の人たちに伝えることをめざしたurbaNature(アーバネイチャー)というプロジェクトに携わっており、グリーンマップ・システムは、この都市にあるものを示すのにぴったりだと考えた。

情報デザイナーとしての私の仕事の多くは環境NGO相手のものだったので、環境に関心をもった知人がミルウォーキー市内に大勢いることを知っていた。でも、彼らは他のグループがどんなことをしているのか知っているだろうかとは私は疑問をいだいた。このプロジェクトを始めることで、こういった人たちのつながりがわかり、また、関係者を結びつけるハズミをつける道ができた。

ミルウォーキー・グリーンマップ・プロジェクトはこうして個人的に突き動かされたアートワークつまり私自身の興味を反映した情報デザインの作業であった。マップを作る過程で、何が起きているのかすべてを自分の目でみられる。それがこのプロジェクトのポイントだと思う。

マップデータ

- ・ 使用言語: 英語
- ・ 版数: 1
- ・ 地図形態: 印刷、ウェブマップ
- ・ 収録サイト数: 408
- ・ グローバルアイコン使用数: 60

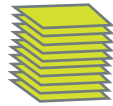


マップ制作

Milwaukee · Wisconsin · USA

Milwaukee Green Map

www.wisconline.com/greenmap/milwaukee

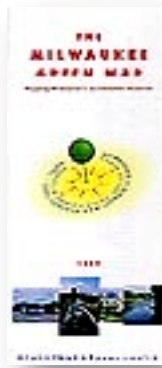


10,000 maps printed

マップは私の情報デザイナーとしての感性を活かしたものである。グリーンマップアイコンを、より大きなアイデアにたどり着く入り口の様なものとして利用し、密度の濃い情報が重層的に見えるマップにしたかった。マップには水辺、人口密度、歴史的な緑の空間を書き込み、裏面には、もっと多くの情報を載せ、相互が関連して持続可能性を支えていることを示した。このマップの特徴は、シンプルな視覚ツールを複雑かつ緻密なネットワークにリンクできることである。

表示内容をはっきりさせるため、明るい色を使い、文字情報と画像のバランスを考えた。ところがどのサイトも信じられないほどの物語があり、全部を取り込むことは困難だった。そこで、清潔な飲料水、廃棄物管理それに食糧の基本的、日常的な必要性をもとに優先順位をつけた。緑の空間や光公害などの美的な配慮も含めた。例えば、過剰な光は、エネルギーの浪費だけでなく夜空を台無しにするからだ。すべてのサイトは美学、社会、経済、環境の要素を織り込んでいる。

コンピューター・プラットフォーム間の違いがこのプロジェクトの多くのデザインの枠組を決めた。ベースマップはマッキントッシュとAdobe Illustratorを使



(左から)

ミルウォーキー・グリーンマップ(1999年)

展覧会「グリーンマップ-社会変革のツールとしての情報デザイン」を告知する葉書(2002年)、第1回グリーンマップ・グローバル会議で14ヶ国の参加者を前に話すマシュー・グロシェック。



った。しかし、これらでは地域グループから提供を受けたGISマップが扱えないことにすぐに気がついた。仕方なく500カ所にのぼるGIS地点を手で入力した。次のマップづくりにはぜひとも避けたい作業である。

ミルウォーキー・グリーンマップ(MGM)は教育機関には無料で配付し、その他にはネイチャーセンター、書店ならびに地元の食糧協同組合で販売した。印刷マップ10,000部の約半分は配布したが、残りは悲しいことに不注意からリサイクルされてしまった! 現在、匿名の寄付者と第2版の作業開始の話がすすんでいる。

テクニカルデータ

ソフトウェア:

Adobe Illustrator
Adobe Photoshop
Filemaker Pro
Cadtools
Avenza MAPublisher

ハードウェア:

Macintosh workstation
Flatbed scanner
35mm camera
Printer

紙質:

Halopague, 100% recycled (20% post consumer)

地図形態とサイズ:

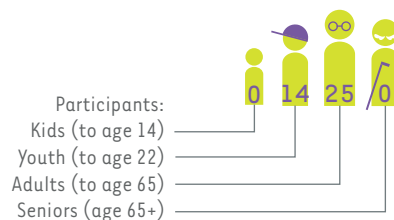
Folding
· Map: 86.4 X 55.9 cm/34 X 22 in

チームワーク

Milwaukee · Wisconsin · USA

Milwaukee Green Map

www.wisconline.com/greenmap/milwaukee



開始してすぐにパートナーシップを形成しようと試みたが、作業を始めてからは共同作業の考えをひっこめた。私は作業を引き受けてくれる人を捜す必要があると考えたが、私が知っているNGOの多くはすでに働きすぎの模様だった。そこでいろいろなグループから、少しずつ情報を集めることにした。こうして輸送に関しては、「よりよい環境を求める市民グループ」から情報を得るとともにマップに載せるサイトに助言するよう依頼した。ウイスコンシン大学ミルウォーキー校の「都市事業と研究センターCUIR」は、フィードバックをしてくれ、近隣のGIS地図作製をいづらか手伝ってくれた。

他のマップづくりプロジェクトにも影響を受けたが、何といてもMGMは究極的には自分の地域社会についての個人的な評価となった。これは排他的に聞こえるかもしれないが、強力な視点にもなりうる。私はまず自分で勉強し、それをマップを通して学んだことを共有することができた。リサイクルショップなど、かっこいいと思える場所もいくつかあった。ミルウォーキーの市民はゴミの資源回収に熱心なことで知られている。廃物利用や節約をすることについては健全な競争意識がある。

私は、科学的で数量化できる基準では、われわれが暮らしている場所の質を伝えるのに十分ではないと感じていた。グリーンマップは、つねに文化的な描写であり、測定は難しいが、作図するのはさほど困難ではない。自分が権利を剥奪されたグループの出身者でないと、自分の住んでいる場所について何も言うことはない、考える人も時にはいるかもしれないが、私はそうは思わない。環境が危険にさらされると誰でも権利を剥奪されるのである。

22人の国際的グリーンマップ >> 制作者が各々のプロジェクトについて発表→イタリア、ベラージオのロックフェラー財団コンフェレンスセンターで。



<< カリフォルニア州サンタモニカのマップ制作者、Isabelle Duvivierとマップデザインについてアイデアを交わすマッシュー



2003年のCardinal Stritch大学での展覧会では、見るウォーカーグリーンマップと世界のマップが紹介された。



大きなグリーンマップアイコンは、情報デザインがいかにか社会問題への気付きに寄与しているかを人々に示した。



制作費

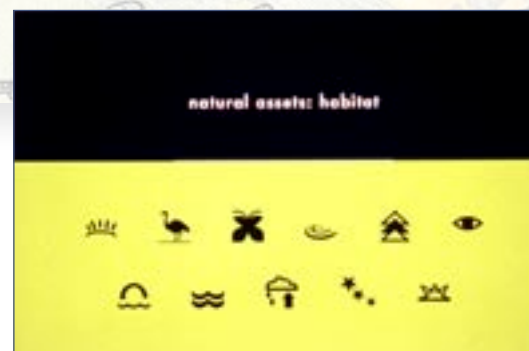
Milwaukee · Wisconsin · USA

Milwaukee Green Map

www.wisconline.com/greenmap/milwaukee

データ収集やチェックなどの仕事をする「人的資源」は、大学生インターン、高校生グループ、それに環境センターの助けを借りた。データベースづくりやウェブサイトの構築には多くの人がボランティアとして技能を提供してくれた。「The Park People」誌を通して「Harry F. & Mary Franke アイデア基金」から5000ドルの資金援助を受けた。このお金で当初無償提供してもらった、たとえば大量のデジタル出力などのサービスに対して支払った。私自身は週あたり5時間から10時間を作業に提供した。当初の計画ではこのプロジェクトの仕上がりを6か月と見込んだが、実際には2年近くかかってしまった。市場相場でいえば、5万ドルはかかっただろう。

終了間際になって、MGMについてインタビューを受け、誰か印刷代を寄付してもらえないものかと語った。その記事が出た2日後、セルス印刷会社から電話があって、10,000部から15,000部を印刷しようと申し出があった。この会社は環境に関心のある会社で、廃棄物となるネガフィルムは使わず、電子プロセスで、大豆インク、リサイクル紙を使い、その他の資源も節約していた。この気前のよい印刷の寄付がなければ、マップはいまだに私のコンピューターの中で



(上から)MGMのウェブサイトは、ミルウォーキーを訪れる人をターゲットとしているが、それには、この地域の持続可能な資源を発見するためにマップを使って欲しいという願いが込められている。このような画面はグリーンマップアイコンを紹介するために使うが、いかにして複雑なアイデアを様々な人に簡略に伝えるかを示している。

身動きとれずにいただろう。事実、その時点ですでに4か月も眠ったままで、外に出る道はなかったのだ。



ミルウォーキーグリーンマップに記されたグリーンマップアイコン。

これらのアイコンは全グリーンマップに共通に使われている



エコノミックデータ

制作主体: Individual

資金源:

Grants, in-kind, sponsorship

主な支援団体:

Milwaukee Foundation
Harry F. and Mary Franke Idea Fund
Sells Printing Company
Bradner Smith and Company of Wisconsin

頒価: \$5, but free to educational groups

派生プロジェクト: Presentations, workshops and exhibitions

評価

Milwaukee · Wisconsin · USA
Milwaukee Green Map
www.wisconline.com/greenmap/milwaukee



MGMはいくつかのメディアで紹介された。(左から)『Milwaukee Magazine』誌(99年10月)、『New Trends in World Design』誌(01年1月)、『A Milwaukee Journal Sentinel』誌記事(99年3月)は、マップの印刷費の寄付を獲得するのに一役買った。その他『Outpost Exchange』誌ニュースレター(01年4月)、日本の雑誌『ラパン』。

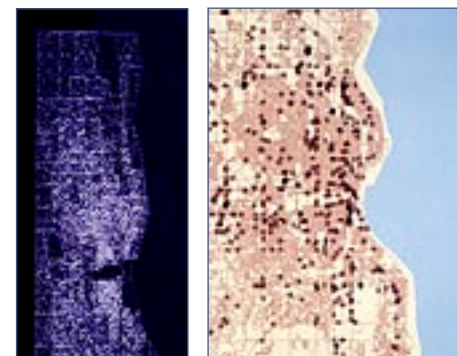
最大の問題は、いつマップを完成させるかを定めることだった。もう一つの問題は、マップができる前にその価値を一般向けに伝えることだった。NGO業界は直接的な利益のないプロジェクトになると経済的に渋いが、マップは持続可能性についての意識を高めるのに解りやすい方法だ。専門家でない人が専門家と話すときは用語が必要であるが、これらのマップはそのような対話のきっかけづくりとなる。

ミルウォーキーがグリーンマップ・システムにつながっていることで、このプロジェクトの信頼度が高まり、ネットワークされた地球規模の考え方というものの恩恵にもあずかった。世界中の人たちが、グリーンマップ・アイコンを使ってマップづくりをしていることを示すことは有利な手段となる。これで私の会社 Education Design Linkのプロとしての信用も高くなった。

地元紙の記事もいくつかあったが、ほとんどは地元の記事というよりもグローバルな内容だった。最近、私は「グリーンマッピング:社会変革の手段としての情報デザイン」と題する展覧会をカーディナル・スト

リッチ大学で企画したところ、ミルウォーキー・グリーンマップ・プロジェクトに対する関心を改めて引き起こした。見学者たちはグリーンマップが地球規模の事業であることに気づき、その数、質の高さ、そして地域的な多様性に彼らは大いに感銘を受けた。

当初のマップは大きすぎたかもしれない。私は地図をポケットに入れて持ち歩けるようなものにしたかった。もう一つの懸念は、マップが環境意識が高い人たち以外には振り向きもされないのではないか、という点だった。しかし、緑の環境づくり、持続可能な都市計画、その他の環境的関連の実践やサービスにうまくフィットした。願わくば、次のマップは、配慮のある暮らしを進め、これらの変化に影響を与えることができるようなものになりたいと思っている。



(左、右)人口密度のマップは、照明されている地域の比較がしやすいように、光公害の分布図の横に配置した。このGISマップは「修復地域と再開発地域」サイトを配置するのに参考にした。



このプロジェクトの根本は、解釈と注意深い選択を通してデータが情報となり、その情報は有益で場所に根ざした知識に変化するというアイデアだった。

むすび

Milwaukee · Wisconsin · USA
Milwaukee Green Map
www.wisconline.com/greenmap/milwaukee

裏面の補助マップは、グリーンマップ・システムと他のマップづくりのアイデアを結びつけ、ミルウォーキー・グリーンマップ・プロジェクトの独自性を示している。個人的なアプローチをとったことも他の地域を基盤としたグリーンマップとの違いを際立たせている。

第2版を作るときには、地域の支援を得る努力をして、マップづくりと一緒にするチームづくりをするつもりである。テキストのライターも探し、画像も文章ももっと内容のあるものにし、ウェブ上の存在感も強くしたいと考えている。印刷物として美しいことも、プリントマップには大切なことだ。

私がこのプロジェクトの好きな点は、地元にいる人だけでなく、地域規模でいるいる人たちを結びつけることである。ベラージョでのグローバル・マップメーカー会議は14カ国の人たちと顔を合わせるすばらしいチャンスだった。こうして地域レベルでパートナーシップを組みながら世界規模の仕事をするのだという目を当たりにして大変印象的だった。

“グロシェクはどうしてみんなミルウォーキーに住みたいと思うのだろうという家族の疑問に答えを出そうと考え、その町の進歩的な側面のロードマップを

“私が今の職についたとき、ミルウォーキー川流域について理解を深め、職務を果たすには、どこが重要な地域なのか見極めるために、ミルウォーキー・グリーンマップを情報源として使った。”

ーキンバリー・グレップフェ、River Revitalization 財団専務理事

自分で作ってしまった。”


ーシェリー・ジャレンスキー、『Outpost Exchange』誌 2001年4月

“ミルウォーキー・グリーンマップは、人々を環境コミュニティとでも言うべきものへいざなう驚異的な手段である。”


ーケン・レインバック、Urban Ecology Center 専務理事

グリーンマップづくりは、市民参加の強さや情報デザインの力を痛感したまたとない経験だった。




 冬でもミシガン湖の湖畔では息を呑むような美しい風景を見ることができる。サイクリング、ウォーキング、クロスカントリースキーには絶好の場所。



 Wehr自然センター内の大草原プレーリーやコナラの茂るサバンナのような再生風景は、ウィスコンシンのもとあった自然の姿を思い起こさせる。



 かつてミルウォーキー川で遊ぶには汚水と戦わなければならなかったが、近年生物も戻ってきており、釣りやカヌーの拠点となっている。



<< Schlitz Audubon自然センターはミルウォーキーの環境配慮型建築の好例となっている。

クレジット

ミルウォーキーストーリー監修:
Matthew Groshek
Education Design Link
3610 North Oakland Ave. Suite 3N
Milwaukee, WI 53211
USA
tel: +1 (414) 962-4888

All map, web, promo images and photos © Education Design Link 2003



多くの動植物にとって環境的な回廊とも言えるミルウォーキー川は、流域住民にも豊かな恵みを与えている。



ミルウォーキーグリーンマップ (1999年)



マップの申し込みは?

online only: www.wisconline.com/greenmap/milwaukee
questions? edimg@execpc.com

www.greenmap.org, グリーンマップ・システムのホームページ: 世界中の全てのグリーンマップ・プロジェクト、グリーンマップ・アイコンポスター、ユースマップ制作ツールなどがいくつかの言語でご覧になれ、リンクしており、持続可能なこの活動への参加のお誘いも掲載しております。



© Green Map® System, Inc. 2004
PO Box 249, New York, NY 10002 USA
info@greenmap.org